



KYUSHU UNIVERSITY

授業デザインから考える成績評価 ～オンライン型授業で変わること・ 変わらないこと～

九州大学 基幹教育院

(ラーニングアナリティクスセンター兼任)

山田政寛 (やまだ まさのり)

mark@mark-lab.net



KYUSHU UNIVERSITY



成績評価について、オンライン型授業で変わること・変わらないこと

実はあまり変わらない

- テストであれ、レポートであれ、これまで受講者に課してきた課題の採点はみなさんご経験が十分にあるはず
 - むしろ**評価する項目**は何か？（それは**授業における目標**があって評価がある）
- 問題は、教員が見えないところでの受講者の行動の影響をどう考えるのか？という点ではないか？（**対面であっても、教員から見えないことは多々ある**）
 - 意識すべき点はあまり変わらないが、**意識と対応の程度は変わる**
- ただ、オンライン型授業では学習ログという**エビデンスが残ることが最大の強み**→これを最大限に活かす



成績評価ツール

項目	対面	オンラインでできること
レポート	提出・内容点	授業資料等への参照、剽窃チェック
テスト	点数	回答回数、回答時間
ミニッツペーパー	提出・内容点	作成プロセス、授業資料等への参照
グループワーク	グループワークの 成果物、発表、相互評価	グループディスカッションのプロセス



レポート

- これまで提出の有無、内容点の採点で成績評価を行っていることが多かった

その評価観点は変わらないが、授業資料への参照に関する活動の記録（ログ）と合わせて、レポート作成のプロセスを評価することは可能

また剽窃チェックもICTを活用するからこそ効率化しデータとして残る

Folders Settings Account Info Welcome 共通17九州大学 | Logout Help

iThenticate[®]
Professional Plagiarism Prevention

Upload a file [Return to Folders](#)

Destination Folder
My Folders - My Documents

Upload #1

Author First Name

Author Last Name

Document Title

Browse for the file you would like to submit

[Add another file](#)

Submit a document

9,950 Documents remaining

[Upload a File](#)
[Zip File Upload](#)
[Cut & Paste](#)

View: [Recent Uploads](#)

File Requirements

Files must be less than 100MB.
The maximum document length is 400 pages.
Files must contain at least 20 words of text.
Files must not exceed 2MB of raw text.
Zip files may contain up to 200MB or 1,000 files.

We currently support file upload for the following document types:
Word, Text, PostScript, PDF, HTML, Excel, PowerPoint, Word Perfect
WPD, OpenOffice ODT, RTF, Hangul
HWP



テスト

- これまでは教場試験でペーパーベースで行うケース、毎回の授業で小テスト（形成的評価）で行うケースが多いと思われるが・・・（大学によっては（九大も含めて）LMSを使って、行うところも）
- オンラインであれば、設定によっては回答回数、回答時間をデータとして記録できるので、これらを評価の観点として入れることは可能
- 各問題の特性（必要と思われる回答時間）については教員自身が把握しておく必要がある

**おかしな行動を取っている受講者
も把握可能**



形成的評価の意味合いでは

- クリッカーの活用（なければ投票の類した機能）

評価に使用できるとの同時に、
フィードバックも可能となる

クリッカー

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12

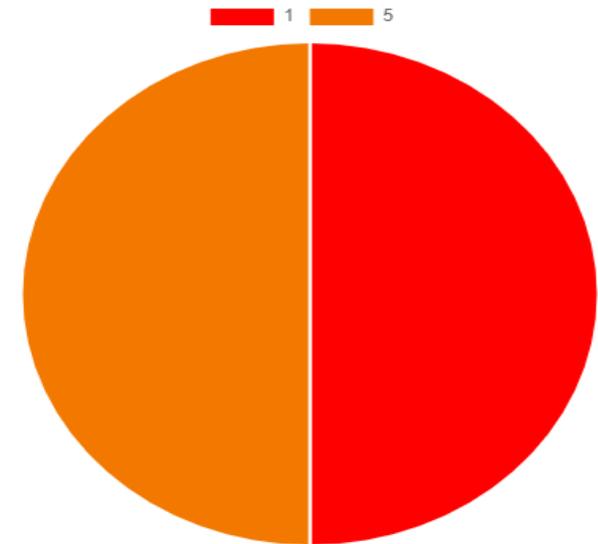
あなたが最後に押したのは1です

自動出欠ブロック

今日の出欠表
出欠管理
出欠レポート

【LINK】

円グラフ総数 - 第一回の講義に関する難易度調査 [2020-04-11 14:02:14]





ミニッツペーパー

- 毎回の授業にて、その回の授業内容の概要、自分の意見、質問などを書かせるもの
- これを提出することで出席とすること授業もある

ICTを活用する場合は・・・

- **学習管理システムやeポートフォリオの日誌機能の活用**
- **文字数といったボリュームだけではなく、論理構造に関する言葉の使用などもクオリティ評価に使える**



グループワーク

- 対面では、1人の教員、もしくは1, 2名のTAと机間巡視し、内容を把握する、観察することが多かった
- オンラインであれば、発言内容まで記録が残るので、その内容を踏まえた評価は可能
- プログラミングでもソースの読み方をペアで行うなど：成果物として、教員から与えたソースコードにコメントを入れるなど
- 何か成果物を出させるのであれば、その分業とその状態を把握できるようにする
 - たとえば、Office 365のExcelやGoogle Spreadsheetでガントチャートを作成させ、進捗記録をさせるなど



グループワークの評価：認知的存在感 (Garrison et al 2003 ; Shea et al, 2010)

Phase	Descriptor
Triggering event	Stimulate one's curiosity, Core organizing concept or problemなど
Exploration	Understanding the nature of the problem, search for relevant information, brainstormingなど
Integration	Focused and structured phase of making meanings, decision-makingなど
Resolution/Application	Resolution of the dilemma or problem, Confirmation or testing phase by direct or vicarious actionなど

詳しくはShea, P. et al (2010) A re-examination of the community of inquiry framework: Social network content analysis, Internet and Higher Education, 13, 10-21

授業デザイン例

段階	教員側のアクション	受講者側のアクション
事前学習	授業1週間前に授業資料をアップロードし、課題を資料内で行う	課題に関する小レポート作成と提出
事前準備	授業資料準備、課題提出ボックス設置 教員とTAでグループ編成をし、フォーラムかチャットセッションの設置をする	
授業	TeamsまたはSkype for Businessにて、グループワークへ誘導	ライブでつなぐ
	チャットを用いたディスカッションを開始 チャットの内容をTAとモニターする	小レポートの共有・紹介、議題に関するディスカッション
	チャット全体へライブ開始を通知し、アクセスさせる	
	ラップアップと課題説明	ミニッツペーパーを執筆し、提出する



授業デザイン例

序

授業目標としては

**大目標：現在のICT利用の学習環境における課題
に対して、ソリューションを検討する**

- 教育工学に関する知識のインプット**
- 論理的思考と情報リテラシー**

せる

ラップアップと課題説明

ミニッツペーパーを執筆し、提出する



全体的に使えるものとして：相互評価

- レポート等の成果物の相互評価
- 評価のためのルーブリックを用意するのが望ましい（公平な評価のためには用意すべき）
- Moodleであれば、「ワークショップ」機能で可能
- 匿名、または他者を評価する
 - 「お互い様効果」（藤原ら, 2007）
低減のため

あなたの提出課題 ▶

ワークショップ評価レポート ▼

姓 ▼ / 名 ▲ ▼	提出 ▲ ▼ / 最終更新日時 ▲ ▼	与えられた評点	与えた評点
	このユーザの提出はありません。	-	- (-) >
	このユーザの提出はありません。	-	- (-) >
	テスト 修正日時: 2020年 04月 10日(金曜日) 23:58	- (-) <	-
	このユーザの提出はありません。	-	-

1ページあたり 10 アイテムの表示

変更 ... ⇅

評価のインストラクション ▼

他者を評価しましょう。



発展編：ラーニングアナリティクスの活用

- もし、学習ログを収集でき、参照できる仕組みがあるのであれば、ラーニングアナリティクスの活用は検討すべき
 - といっても、アプリを開発して・・・といった負荷が高く、深いものではなく、受講者各人の学習活動と小テスト等の課題点との相関を取るといったレベルでも構わない
 - 行動としておかしなことをやっている受講者の特定



発展編：ラーニングアナリティクスの活用

グラフ表示



スクリーンショット

Shimada et al, 2017



評価＝次の学びに活かすヒント

- 先週の鈴木克明先生（熊本大学・日本教育工学会 会長）のご講演にあったように「無理はしない」、「非同期でできることを精一杯する」
- 成績評価は平常時の授業通りでも問題ないと思われるが、気になる点があるのであれば、それらをトラッキングできるような評価項目を設定する必要がある
- ライブで1発勝負の評価ではなく、形成的評価を積み重ねで
 - その形成的評価において、受講者にフィードバックを与える仕組みをつくることで、受講者も不安は低減されるのではないか？
- TAの育成をどうするか？

評価

- 概要
- 活動内容
- カリキュラム・授業改善
- FDポータル
- 教育用語
- その他のリソース
- お問い合わせ・アクセス

- 先に杯
- 成る項
- ラ
- TA

演
一
分
面

HOME > NEWS

NEWS

2019.11.01

新TA制度の開始について

九州大学では、令和元年10月から全学を対象とした新しいTA（ティーチング・アシスタント）制度を開始する。学内に様々な形態で存在してきたTA制度を一元化し、質を高めて運営していくことを目指し、「教育改革推進本部」（本部長：久保千春九大総長）が中心となって制度改革を推進してきた。

新TA制度では、TAが教育能力に応じて「3つの階層」に区分され、各々の活動に応じたTA教育プログラムが提供される。この制度では、学部3年生からTA活動が可能になるほか、一定の教育スキルに関する訓練を受けた大学院生が、教員の指導の下で一部の授業を担当することも可能になる。

TA教育プログラムは、主にeラーニング教材として提供され（一部を除く）、「九州大学TAポータル」を通して受講結果管理、認定書発行、TA応募が可能になるなど、ICTを積極的に取り入れたTA活動のサポートも、新TA制度の大きな特徴である。

今後新TA制度を通して、TAを担当する学生が、活動を行う中で自分自身の学びを深め、また、双方向性が求められている大学教育の授業改善の助けにもなることが期待されている。

【※当該記事は、令和元年10月16日（水曜日）「文教速報」及び令和元年10月21日（月曜日）「文教ニュース」に掲載されたものである。】



Q&A

mark@mark-lab.net

<http://mark-lab.net/>

